

出題分析			
試験時間	90 分	配点	75 点
		大問数	5 題
分量 (昨年比較) [減少	同程度	増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化
			同程度 難化]
【概評】 全体の問題構成は例年通りの読解問題 6 題、対話文空所補充問題 1 題、英文要約問題 1 題である。長文読解問題は、全体的に素直な設問がほとんどであるが、中には本文の誤読を誘うような誤答選択肢が含まれた設問があるので、選択肢に惑わされない正確な読解力が要求される。今年は I の空所補充問題に難しい設問が見られたほか、IV の対話文空所補充に受験生には馴染みのないイディオムが出題された。一方で III、V は比較的取り組み易く、全体的な難易度は昨年並みである。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	英文空所補充問題 A 「ミツバチに個性はあるか」 B 「環境言語学について」	A・B それぞれ短めの文章中の空所 7 箇所に単語を補充する問題である。空所 7 など、平易な単語が意外な意味で出題される場合がある。A・B ともに決め手に欠ける設問も含まれるが、標準的な設問で確実に得点したい。	やや難
II	長文読解問題 A 「宗教のコミュニティに対する役割」 B 「詩を批評することの難しさ」 C 「『ベオウルフ』が同時代の聴衆に与えた効果の研究」	A・B は短めの文章、C はやや長めの文章を題材にした、設問文に続く一文を選ぶ問題である。文章にはやや難解な部分があるものの、選択肢の言い換え表現が文章中に明確に存在する設問が多く、精読することで根拠を持って解答することができる。また、紛らわしい誤答選択肢も比較的少なく、消去法で対応することが可能な設問もある。	標準
III	長文読解問題 「科学史におけるガリレオの革命」	長文中の空所 7 か所に英文を補充する問題で、選択肢は 8 つある。選択肢が 1 つ余るので紛らわしいが、空所 31 など、前後の文を読むことで選択肢が 1 つに定まる空所から埋めていくと取り組みやすくなるだろう。	標準
IV	対話文空所補充問題 「クラスプロジェクトの準備についての対話」	対話文中の空所 7 か所に適切な語を補充する問題で、選択肢は 13 個ある。対話の状況設定はわかりやすいが、難易度の高いイディオムが多数出題された。	難

設問別講評			
V	英文要約 「マインドワンダリングのもたらす創造力」	250 語程度の英文を要約する問題である。例年同様、解答欄に書き出しが与えられ、それに 4 語～10 語を加えて文を完成させる形式であった。文章中に筆者の主張が繰り返し表現されていたため、比較的解答しやすかった。書き出しの英語をヒントにすれば解答の内容を定めやすくなるだろう。	標準

合格のための学習法
<p>読解する文章はテーマが多岐に渡っているが、それぞれの語数は多くないので慌てずに通読し、内容を理解することに努めてほしい。空所補充問題でも、空所の前後だけでなく全文を通読することが、問題を解くにはむしろ近道になり得る。普段から長文を自力で読解する訓練を積み、馴染みのない概念や抽象的な内容を扱った文章にも落ち着いて取り組めるようになろう。総じて語彙レベルが高いため、単語学習は特に力を入れて取り組みたい。</p>